授業科目	社会的養護Ⅱ					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	選択	開講年次	3	開講時期	後期
担当教員	山根　正夫						
授業概要	実務家教員としての経験を踏まえて、近年の社会的養護を取り巻く環境の変化に応じた方向性の中から、社会的養護Ⅰについての理解を基盤として更に子どもの権利擁護を基礎においた実際の社会的養護の内容について共に考え実践に向けてた授業を展開します。						
授業形態	演習				授業方法		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1　子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解している。 2　施設養護及び家庭養護の実際について理解している。 3　社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解している。 4　社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解している。 5　社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解している。 現代の社会的養護の実践について基礎的な知識を有する。
理想的レベル	標準的な達成基準に加えて、現代の社会的養護の実際について理解し、その内容について十分に説明できる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）	50%	
レポート外の提出物	50%	
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	WE21603J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
提示された課題について、予習の上、プレゼンテーション・討議などなどの共同学習を通して理解を深める。	1

授業計画	
第 1 回	オリエンテーション ー社会的養護とは何か：社会的養護Ⅰで学習した内容をもとにさらに理解を深める。
第 2 回	社会的養護における子どもの理解 ー社会的養護を必要としている子どもたちの援助に必要な基本的な発達理解の方法について検討する。
第 3 回	社会的養護の実際１

	ーVTR 教材を用いて子どもたちの状況や家族支援等の実際について学ぶ。
第 4 回	社会的養護の実際２ ーVTR 教材を用いて子どもたちの状況や家族支援。支援者の状況について学ぶ。
第 5 回	日常生活支援 ー日常生活支援とは何でありまたどうあるべきかについて事例等を用いて検討する。
第 6 回	治療的支援 ー心理・治療的支援とは何であるどうあるべきかについて検討する。
第 7 回	自立支援 ー自立支援とは何かについて事例等を用いてその実際を検討する。
第 8 回	施設養護の特性および実際 ー社会的養護に係る施設等について事例等を用いてその実際を検討する。
第 9 回	家庭養護の特性および実際 ー家庭養護の現状と課題について事例等を用いて検討する。
第 10 回	アセスメントと個別支援計画 ー個別支援計画について事例等を用いて検討する。
第 11 回	記録及び自己評価・第三者評価 ー記録の必要性、スーパービジョン等の在り方や施設運営に関する第三者評価等について事例等を用いて検討する。
第 12 回	専門職としての役割や倫理観・技術・実践 ー社会的養護に係る専門職としての知識・技術とその応用について検討する。
第 13 回	ソーシャルワークに係る知識・技術とその実践 ー社会的養護におけるソーシャルワーク的機能や実際について事例等を用いて検討する。
第 14 回	社会的養護における家庭支援 ー家庭支援の現状と課題について事例等を用いて検討する。
第 15 回	社会的養護課題と展望お及び全体のまとめ ー社会的養護の今後の在り方及び授業全体をとおしてまとめ疑問点や課題等について整理する。
テキスト	小木曽他編著(2022)　よくわかる社会的養護Ⅱ　ミネルヴァ書房
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	自立支援計画研究会編(2005)「子ども家族への支援計画をたてるために」日本児童福祉協会
課題に対するフィードバックの方法	基本的には各課題にについてのプレゼンテーションの内容及び提出物については毎回のコメントで、またレポートについては確認後コメントを付して返却します。
学生へのメッセージ・コメント	2 年次で開講されている児童家庭福祉と 3 年次に開講されている社会的養護Ⅰで学習した内容について理解しておくこと。プレゼンテーションにあたっては、共同学習、相互のコミュニケーションを意識できること。

	インターネットによる情報だけでなく、文献や研究論文などにもアクセスして理解を深めてください。